

審査結果報告書

2021 年 1 月 8 日

主 査 氏 名

青山直善



副 査 氏 名

武田 啓



副 査 氏 名

内山勝文



副 査 氏 名

金井 昭文



1. 申請者氏名 : 大塚 智久

2. 論文テーマ : Preoperative sepsis is a predictive factor for 30-day mortality after major lower limb amputation among patients with arteriosclerosis obliterans and diabetes (術前敗血症は、閉塞性動脈硬化症と糖尿病性足壊疽患者の下肢切断術後 30 日死亡率の予測因子である)

3. 論文審査結果 : 2021 年 1 月 8 日 16 時より、主査：青山直善、副査：武田 啓、内山勝文、金井昭文、により麻酔科大塚智久（指導教授 岡本浩嗣）（敬称略）の論文博士学位審査を実施した。本論文は、2007 年 1 月から 2016 年 10 月までの約 10 年間に、北里大学病院で下肢切断術を施行された全症例のうち、閉塞性動脈硬化症と糖尿病性足壊疽により下肢切断術を実施された 185 例から 63 例を除外した 122 例について、患者因子、外科的因子、手術因子、基礎疾患、合併疾患について、周術期死亡に寄与した因子を後ろ向きに検討した研究である。過去の研究では、周術期死亡率は 4-22%であり、膝上切断、高齢者、透析患者などの因子が 30 日死亡率の予測因子として報告されている。本研究では、周術期死亡率は 6.6%であり、「敗血症」および「糖尿病を合併しない閉塞性動脈硬化症」の二つの因子が死亡に寄与する因子であった。2016 年に敗血症の新しい診断基準（Sepsis 3）が提唱された以降に、下肢切断術術後の 30 日死亡率の危険因子に術前の敗血症の存在が関与していることを明らかにした研究は、本研究が初めてであり、下肢切断術の周術期管理として術前の敗血症の有無を把握し管理することは、今後の下肢切断術の予後を改善するものである。論文審査における、質疑応答にも十分に対応できており、主査および全ての副査とも、学位論文としてふさわしい内容であると判断した。